



第34号

2021年12月

発行・編集
甲賀市企業人権啓発推進協議会
事務局
甲賀市役所産業経済部商工労政課内
TEL 0748-69-2188
http://www.ac-koka.jp/koka-kijinkyuu/

2021年度経営者トップ研修会

7月14日(水)開催



熱心に講演の小川報道制作局長

令和3年(2021年)7月14日(水)より、2021年度経営者トップ研修会が、甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」とZoomによるハイブリット形式にて開催され、「ハンセン病問題を追いつけて」と題し、三重テレビ放送株式会社 報道制作局長 小川秀幸さんにご講演いただきました。

最初にハンセン病の近年のトピックとして、2019年の「家族訴訟」で原告が勝訴したことにより、国の誤った隔離政策のもと、患者だけでなく言われなき差別を受けてきた家族への補償がやっと行われたとのことでした。

昔は、感染力が強く、不治の病、遺伝性の伝染病と考えられていました。近代になり「らい菌」が発見(1873年)され、特効薬が発表(1943年)されても、日本における患者の隔離政策は継続され続け、1996年になりようやく「らい予防法」が廃止となります。

現代では、ハンセン病の感染力は非常に弱いこと、



三重放送のVTR視聴風景

投薬で完治する病であり、ハンセン病の治療を行った医療従事者への感染は発生していないことなど、正しい理解が進みつつあります。

講演の中では小川さんが取材を続け、今年の1月と5月にも放映された番組のダイジェストVTRを視聴させていただきましたが、その中で患者さんが語っておられた「差別するのは人間だけ」との言葉が重く心に残りました。また、正しい理解を得るためには「関心」が必要であるとのこと、日常的に重要であると感じました。

VTRの中の患者さんはハンセン病以外の差別も無くなって欲しいと願われていましたが、現在新型コロナウイルスによる差別が広がっています。小川さんは、未知の病への不安から、感染者に対し「ウイルスを持ち込む加害者」との偏見があり、患者と家族、患者と職場等も同一視された差別が起こっており、誰にでも感染の可能性があるコロナでさえ差別を抑えられなければ、第2のハンセン病が起これば差別は乗り越えられないと危惧されていました。



ハイブリッド研修の状況

また、「人間回復」との言葉をとおり、患者自身のことだけでなく、社会が人間性の回復を行わなければ、差別・偏見・人権侵害は無くなると結ばれました。

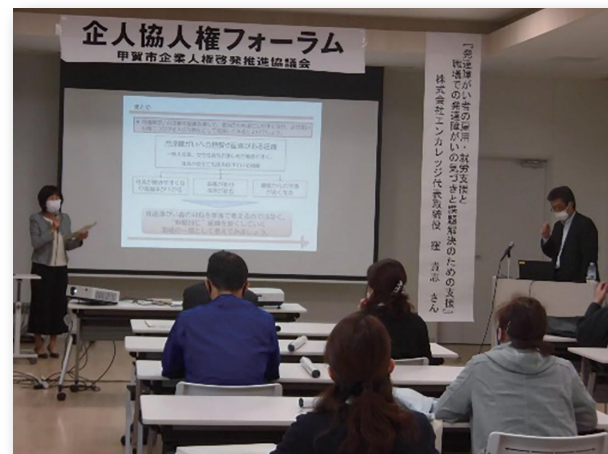
本来人間は無知なものへの恐怖があり、その恐怖心が差別や偏見を生み出すため、正しい認識の必要性を気づかせていただく貴重なご講演でありました。

参加者は83名(甲賀市55名<会場18名、Zoom37名>、湖南市28名<会場7名、Zoom21名>)でした。

梶滋賀松風 畑山 博行・記

令和3年度人権フォーラム / 甲賀市企業内人権啓発窓口担当者第1回ステップアップ講座

11月4日(木)開催



チャットの質問に回答する様子

令和3年(2021年)11月4日(木)、人権フォーラム及び甲賀市企業内人権啓発窓口担当者第1回ステップアップ講座が合同開催されました。会場は甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」です。ハイブリッド研修会となる今回、感染対策を実施のうえ、zoom参加97名、会場参加36名、計133名が参加となりました。

冒頭、開会のあいさつでは甲賀市企人協江籠会長が「コロナ禍における誹謗中傷・謂れのない差別を経験することとなったが、この経験を負の遺産にせずお互いが思いやりと強い絆を感じながらみなさまとともにこの時代を乗り越えたい」と力強く述べられました。

研修は、株式会社エンカレッジ 代表取締役 窪貴志さんに登壇いただきました。

3年連続(昨年は緊急事態宣言下のため中止)で講師として研修実施していただきました。

テーマは「発達障がい者の雇用・就労支援と職場での発達障がいの気づきと課題解決のための支援」です。

発達障がいの特性、ASD・ADHD・LDその他について体系的にまとめてご説明いただきました。それぞれ



熱心に講演の窪貴志社長

の特性やその関わり方についての説明はとてもわかりやすく、また身近に感じることもありました。特に後半「発達障がいと職場」というテーマでは、具体的な職場内での対応策なども説明があり参考になるものでした。

私自身2回目の受講になりますが、1回では理解できていないことがよくわかり、2回3回と継続して学ぶことが大切だと感じました。

参加者から「障がいがありそうな社員へ自覚自認させる方法としてはどういったものがありますか?」といった質問について、「具体的な方法はありません。」としながらも2つのケースを挙げられました。一つ目はメンタルダウン(うつ病など)をきっかけに医療機関を受診し発達特性が見つかるケースがある。二つ目は「困りごと」に焦点を当てて話を聞くこと、そして困りごとを解決するにはどうしたらいいかという話をする中で間接的に自認していくというケースがある。と丁寧な回答がありました。発達障がいへの理解を深めるためのこういった研修や企業の担当者が気軽に相談できる場所の必要性も感じるものがありました。



色々な角度から見ることを説明

最後に、「時代背景もあるが、発達障がいのみならず、新入社員・育休明け社員・外国人社員等、他の働きづらさを感じている方々についても必要な配慮というものは共通しており、今回のテーマについては同じような視点で見ていただけるものではないかと思っています」との言葉にはとても共感できるものがありました。

発達障がいの方を雇用している・いないに関わらず、より良い組織づくり、人間関係性において、お互いに配慮することが大切だといったことを学べる有意義な研修会でありました。

ニッポンロジパック 内田 宏文・記

令和3(2021)年度
人権標語募集

12月4日(土)~12月10日(金)は人権週間です。

企人協では、人権週間の取組みとして『人権標語』の募集をしています。詳細については各企業・事業所に募集要項を送付していますので「啓発担当者」にご確認ください。最優

秀賞1点(副賞:商品券1万円)優秀賞11点(副賞:商品券5千円)参加賞(商品券500円)を贈呈いたします。

皆様のご応募をお待ちしています。